

令和3年度第1回甲賀市社会教育委員の会議 定例会議事録

日時：令和3年（2021）年8月6日（金）

15時～17時

場所：あいこうか市民ホール展示室

出席者（委員） 姉川委員、山本委員、沢井委員、西村委員、土田委員、宝本委員
坂上委員、上甲委員、井ノ口委員、岡村委員、辻委員 以上 11名

（事務局）教育委員会事務局 田村次長、岡崎参事、上村補佐、神山係長
森地指導員 以上5名

傍聴者 なし

委員総数13名の内、11名が出席。甲賀市社会教育委員会議規則第3条2項の規定により過半数を満たし会議成立。

○市民憲章唱和

1. 開会あいさつ

- (1) 次長…コロナワクチン接種状況や社会教育委員の会議の提言テーマにかかる国の方針の特徴や本委員会への期待についての挨拶。ほか
- (2) 委員長…昨年度末（3/29）、西村教育長に提言書を提出したが、その提言書の内容が形骸化せず、実現に向けて活用されたいことや教育委員との協議の場を作りたい旨の挨拶。ほか

2. 協議事項

(1) 地域学校協働活動の推進について

（事務局）今後の推進策とCS推進校の2事例について説明。

- ① 地域学校協働活動とコミュニティスクール制度創設については、一体的推進で進めていく。
- ② 貴生川小学校のCSについては、別紙「貴生川小学校コミュニティスクール導入の流れ」および「貴生川小学校のコミュニティスクール」～はじめようやってみよう～の資料により概要説明。
 - ・CS導入検討ミーティング→学校評議員会や学校地域連携協議会→CSはじまりの会→CSだより発行→ボランティア交流会→CSルーム準備→第1回学校運営協議会開催の手順で導入。
 - ・スマイルプロジェクトと称している。

- ・学校運営協議会委員は10名。あて職では任命されていない。
- ・各種の事業や整備を、ぬくもり貴生川、ふるさと貴生川、つながり貴生川の枠組みの中で進められている。
- ・学校地域連携協議会で地域学校協働本部の役割を担っている。

③ 土山小学校のCS

(事務局)

- ・別紙資料「コミュニティスクール土山だより（つ：つながろう、ち：地域とともに、や：やってみよう、ま：仲間とともに）」により概要説明。
- ・2019を準備期間と位置づけ、「土山学」の推進・充実を図る。
- ・2020は組織と計画策定期間とし、「総合的な学習の時間」の学習計画づくりに尽力する。
- ・「コミュニティスクール活動構造図」作成し、各種の組織・活動（学習）の位置づけを明確に示す。
- ・2021に立ち上げ、第1回学校運営協議会開催。15名の委員委嘱、組織づくり、土山小グランドデザイン発表。
- ・CSの魅力について広報活動を強化する。

(2) 今後の予定

① 地域学校協働本部の設置検討について

(事務局)

- ・地域学校協働活動推進員設置要綱の策定を進めてきた。要綱はあくまでもサンプルであり、今後、加除修正していきたい。
- ・両校とも、学校が、地域の核となる方との協議をはじめている。また、自治振興会やセンター長との懇談を予定している。
- ・今後は、市民センターや公民館などとも連携して進める。

② 予算措置について

(事務局)

- ・仮試算額を説明。補助事業を活用し、先ずは貴生川と土山で先行して来年度予算化していきたい。

(3) 意見交換

① 社会教育委員の会の審議テーマについて

(委員)

- ・CSと地域学校協働活動の一体的推進や事例を紹介してもらったが、この会の今年度の大きな流れ（テーマ）、具体的にどう進めるかが見えない。
- ・社会教育委員の活動テーマを決めることが大事。
- ・委員が学校等に出向き、その後にテーマを決めるやり方もある。

- ・毎回の協議テーマを一つにしぼってやればどうか。
- ・資料の先送りをしてほしい。協議テーマは先に決めてほしい。

(事務局)

- ・今後、委員の皆様のご意見を伺いながら進めていきたい。
- ・資料は、事前に送らせていただく。

② モデル校方式について

(事務局)

- ・今年度は、2校をモデル校として位置づけ、そこから「地域学校協働本部」を立ち上げていきたい。今後、具体化を図っていく。
- ・情報を皆様にお示しながら、ご意見をお伺いしたい。
- ・まずは2校からスタートしたい。

(委員)

- ・今、形(制度)としては現れていないが、「総合」の時間創設時よりどの学校も学校と地域連携に関して同じことをしている。
- ・両校以外にも、地域コーディネーターもいるし、すぐできると思う。(ことさらに、2校先行方式にとらわれなくてもいいのではないか)
- ・土山小では、学校と地域との連携状況を地域に浸透させるため、学校評議員＋アルファで昨年度3回協議の場を持った。
- ・統合対象地域の学校は、たちまちのCS導入は難しいのではないか。2校は校長の熱意により実現している。しかし、現実的には、各校は、それぞれにボランティアの組織を持ち、繋がっている。ボランティアは、学校支援と自分のためとの気概を持ち活躍している。
- ・他校でも現実の状況に加えて、システム化への取り組みを促していただきたい。
- ・学校に軸になる人を配置し、そして予算化が必要。
- ・制度づくりには、言うだけでなく行動していくことが大事かと思う。

(事務局)

- ・2校のモデル校につき、教育委員会で協議した情報を皆様に提示しながら、また委員の皆様のご意見を賜りたい。

③ 広報活動の問題

(委員)

- ・本制度問題につき、地域への情報提供はどうする予定か。
- ・制度化されていないのが、甲賀市含めて二市一町。早急な取り組みが必要。
- ・制度づくりは言うだけでなく行動していくことが大事である。
- ・CS,地域学校協働活動について、委員会や行政サイドの取り組み状況を

学校に伝えていくことが大切と思う。

(事務局)

- ・HPで会議内容を広報したい。推進の具体的な内容も示したい。
- ・CS、地域学校協働活動の一体的推進の観点から、関係機関との連携は重要と考えている。
- ・CSも今は努力義務で、設置義務ではない。学校再編があるから、CSなしとは思っていない。
- ・問題点を調査しながら進めたい。

④ 提言書の検証について

(委員)

- ・提言書に示した内容が、どれ位進捗しているのかを検証したい。
- ・教育委員と社会教育委員との意見交換会も必要。
- ・提言書の不十分な点もあれば検証していきたい。

(事務局)

- ・提言書が今後の取り組みに生きて働くよう、活用を図っていきたい。

⑤ 行動する社会教育委員について

(委員)

- ・先日のオンライン研修で聞いた「行動する社会教育委員」。一つの方向が明らかになったのではないか。
- ・甲賀市もこの流れ(=「社会教育委員も現場で行動する」)を踏まえて動くのか、の協議を始めることができた。
- ・CSや地域学校協働本部立ち上げに、自分に何ができるかを考えていく必要がある。
- ・学校には、主任児童委員で入っているが、社会教育委員では入っていない。
- ・学校は社会教育委員がどのような活動をしているのか疑問に思っているのので、社会教育委員が行動していることのメッセージを送ってほしい。
- ・現状では、社会教育委員が学校に入るのは難しいと思うので、我々委員に何ができるかをこの場で決めてほしい。
- ・事務局サイドでまとめてほしい。
- ・私は学校評議員をしているのですが、学校評議員の役割は何か。評議員のシステムを地域学校協働活動推進上の業務として活用していったらよいのか。
- ・貴生川小学校では、学校評議員が発展的に解消され、今はない。評議員制度は、学校主体で依頼する制度であり、地域学校協働活動とは性格が異なる。
- ・社会教育委員が学校に入るのは大切と思うが、学校側から社会教育委員に問題を投げかけられたら、どう対処していくのか。

- ・諸課題に対するノウハウを身につけたい。
 - ・応（答）えられない問題には、応（答）えなくてよい。
 - ・社会教育委員がバラバラに動いてもだめなので、事務局も社会教育委員が学校に入れる環境づくりに努めないといけない。社会教育委員と学校との協議の場が実現できない現状がある。
 - ・社会教育委員と学校の情報交換の場が必要。
 - ・テーマはその後決めればよい。
 - ・自分の地域がCSについて進んでいないのが残念。自分はどんな役割を果たせばいいのか、次回に検討してほしい。
 - ・地域学校協働活動本部がCSについていけるかが気にかかる。
 - ・なぜCSができないのかを議論するのではなく、どうしたらできるのかを議論していきたい。
- (事務局)
- ・「活動する社会教育委員」でお話をうけたまわったが、活動しやすい社会教育委員の会議になるよう引き続き努力したい。
 - ・「甲賀市地域学校協働活動推進員設置要綱（案）」の検討は先送りとなった。

3. 閉会あいさつ

(副委員長)

- ・本日の定例会がよかったとの評価
- ・五輪参加のアスリートが、インタビューで「感謝」の言葉を述べられていることに感銘を受けている。
- ・自分は、学校だけでなく、地域で力をつけてもらった。地域で学んだなと思える子を育てたい。